





Japanese Society of Pediatric Ostomy and Continence Care

# 第27回 日本小児ストーマ・ 排泄管理研究会

プログラム・抄録集

テーマ

小児WOCケアの  
これまで これからとひろがり

会期

平成25年 5月18日(土)

会場

兵庫県看護協会

会長

鎌田 直子

兵庫県立こども病院 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師

事務局

兵庫県立こども病院 看護部内  
第27回日本小児ストーマ・排泄管理研究会事務局

担当: 伊達 尚美、鳴滝 由佳

E-mail: [kodomo.stoma@gmail.com](mailto:kodomo.stoma@gmail.com)

ホームページ <http://27.kodomo-stoma.net>

## 第27回日本小児ストーマ・排泄管理研究会 委員名簿

会 長：鎌田 直子（兵庫県立こども病院）

運営委員：加藤 好美（元京都橘大学看護教育研修センター）

松尾 規佐（大阪府立母子保健総合医療センター看護部）

阿部 薫（大阪大学医学部附属病院 看護部）

本田 優子（大阪市立総合医療センター看護部）

当日協カスタッフ：日本看護協会看護教育研究センター  
認定看護研修課程 WOC 看護関西6期生  
兵庫県立こども病院スタッフ有志

## ご 挨拶



第27回日本小児ストーマ・排泄管理研究会  
会長 鎌田 直子 兵庫県こども病院 看護部

この度、第27回日本小児ストーマ・排泄管理研究会を神戸の地で開催させていただくことになりました。大変光栄なことであり心から感謝いたします。

今回の研究会のテーマは「小児 WOC ケアのこれまでこれからとひろがり」です。

プログラムは、テーマに沿ったシンポジウムと要望演題である「地域活動」、「ストーマサイトマーキング」のセッション、一般演題として「スキンケア」「胃瘻・腸瘻」「低出生体重児」「ストーマ管理」「自立支援」「排便管理」のセッションとなりました。

シンポジウムは「これまでこれから」として WOC ケアに携わる大先輩の看護師お二人に WOC ケアの歴史、将来の課題をお話しいたします。「ひろがり」として患者様とご家族、医師、臨床心理士、小児専門看護師に WOC ケアでの他(多)職種協働をお話しいたく予定です。様々な立場のご発言から小児 WOC ケアの歴史を振り返り、将来の課題を明確にしていければと思っております。

演題数は、要望演題として、ストーマサイトマーキング5題、地域活動4題、一般演題として31題、合計40題の多くの演題をいただきました。感謝いたします。

本来ならば一会場で運営し参加の皆様にご全ての演題をお聞きいただくべきところですが、多くの演題をご応募いただいたことと会場使用時間の都合により、午前中を二会場並列の発表とさせていただきました。

活発にご討議いただき、この研究会が皆様のご活躍・ご発展の一助になることを祈念しております。

風薫る5月、神戸で皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

# 参加者へのお知らせ

---

## 【参加受付】

平成25年5月18日(土) 8:30～

## 【参加費】

5,000円

## 【年会費】

3,000円

## 【幹事会】

平成25年5月17日(金) 17:00～18:00

兵庫県農業会館 10階 102号室

## 【世話人会】

平成25年5月17日(金) 18:00～19:00

兵庫県農業会館 10階 102号室

## 【その他】

### 1. 飲食について

ハーモニーホール(第1会場)は飲食禁止です。

### 2. 喫煙について

全館禁煙となっております。ご協力お願いします。

### 3. クロークについて

4階にあります。

### 4. 携帯電話などのご使用について

会場内では、携帯電話の電源はお切りいただくか、マナーモードの設定をお願いします。

会場内での撮影・録音は著作権及び肖像権の視点からお控えください。

# 発表のご案内

---

## 【演題発表について】

1. 演者の方、座長の方はセッション開始30分前までに会場の受付で登録をお済ませください。朝一番のセッションの演者の方は、早めにスライド受付をお願いいたします。
2. 発表時間は一般演題と要望演題は5分(質疑応答3分)、シンポジウム9分です。時間を厳守してください。
3. 発表でのPCプレゼンテーションの枚数に制限はありませんが、発表時間内に終了する枚数にしてください。
4. 演者は、発表の10分前までに次演者席にお着きください。

## 【発表形式】

1. 講演はすべてPC発表とします。スライド、ビデオ、DVDの使用はできません。使用するPCはWindows XP, Windows7, Power Point2007, 2010です。互換性を確認し、USBメモリーでお持ちください。持参するスライドのファイル名は演題番号と氏名としてください(例:「要望演題 Ⅲ-01 神戸花子」)。演題番号はプログラムでご確認ください。データはトラブルの可能性がありますので予備を必ずご持参ください。動画再生の発表者は動作の確実なご自身のパソコンを持ち込んでください。コネクターも持参してください。
2. フォントはMSゴシック、MS明朝、MSPゴシック、MSP明朝、Century、Times New Roman、Symbolなどの標準フォントでお願いします。特殊フォントは動作しないことがありますのでご遠慮ください。
3. USBメモリーは、各自ウイルスチェックをお済ませのものを持参ください。

## 【発表データの受付】

1. Power Pointで作成された発表データが保存されているUSBメモリーを発表のセッション開始30分前までに「スライド受付」にお持ちください。
2. ご自身のPCで発表なさる方は、発表の45分前までに「スライド受付」にお申し出ください。

# 交通のご案内



## 住所・連絡先

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目6番24号

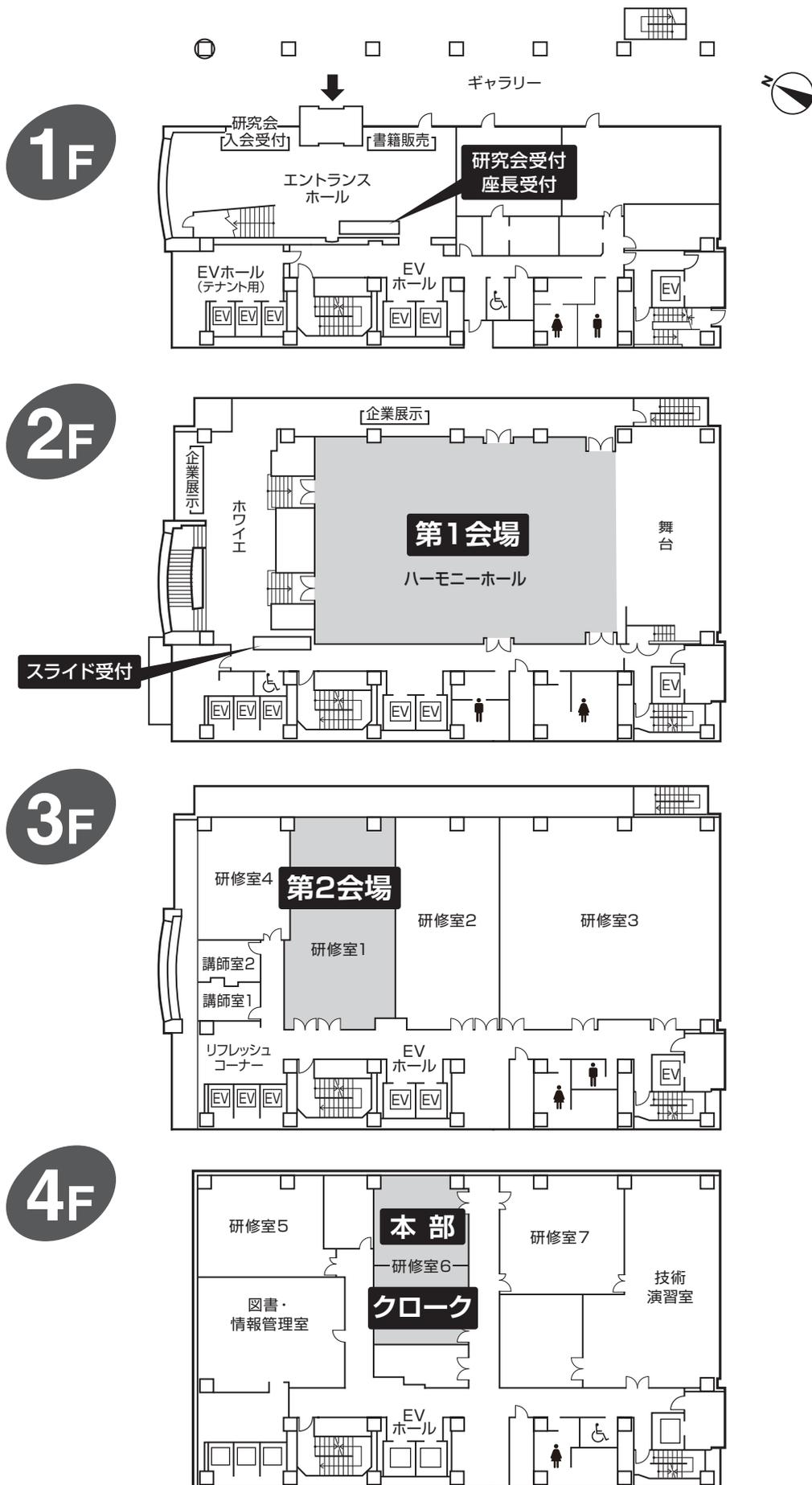
■ 兵庫県看護協会 TEL:078-341-0190(代)

## 会場へのアクセス

JR「元町駅」下車 西口から山側へ徒歩8分

神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車 4番出口から徒歩2分

# 会場案内



# 日 程 表

兵庫県看護協会

第 1 会場 2階 ハーモニーホール		第 2 会場 3階 第1研修室	企業展示 2階側廊
9:00	9:00 開会式、会長挨拶		
	9:05~9:40 一般演題Ⅰ 1~4 [スキンケア] 座長：金森 豊先生(国立成育医療研究センター) 日野岡 蘭子先生(旭川医科大学病院)	9:10~10:00 一般演題Ⅴ 1~6 [自立支援] 座長：杉多 良文先生(兵庫県立こども病院) 奥田 裕美先生(国立成育医療研究センター)	
10:00	9:40~10:30 一般演題Ⅱ 1~6 [胃瘻・腸瘻] 座長：仁尾 正記先生(東北大学) 小柳 礼恵先生(東京大学医学部附属病院)	10:00~10:35 一般演題Ⅵ 1~4 [排便管理] 座長：窪田 昭男先生(大阪府立母子保健総合医療センター) 市六 輝美先生(神奈川県立こども医療センター)	10:00~ 15:30
	休 憩		企業展示 + ドリンクコーナー
11:00	10:45~11:35 一般演題Ⅲ 1~6 [低出生体重児] 座長：高見澤 滋先生(長野県立こども病院) 保刈 伸代先生(東邦大学医療センター大森病院)		
12:00	休 憩		
13:00	12:45~13:20 要望演題Ⅰ 1~4 [地域活動] 座長：吉野 薫先生(あいち小児保健医療総合センター) 和田 美香先生(九州大学病院)		
14:00	13:20~14:40 シンポジウム [小児 WOC ケアの これまでこれからとひろがり] 司会：西島 栄治先生(兵庫県立こども病院) 溝上 祐子先生(日本看護協会看護研修学校)		
	コーヒープレイク		
15:00	15:00~15:40 一般演題Ⅳ 1~5 [ストーマ管理] 座長：前田 貢作先生(自治医科大学) 末吉 康子先生(東京都立小児総合医療センター)		
16:00	15:40~16:20 要望演題Ⅱ 1~5 [ストーマサイトマーキング] 座長：廣部 誠一先生(東京都立小児総合医療センター) 山崎 紀江先生(長野県立こども病院)		
16:30	16:20~16:35 閉会式、会長・次期会挨拶		

# プログラム

5月18日(土)

第1会場(2階 ハーモニーホール)

9:00~9:05 開会の辞

9:05~9:40 一般演題 I

[ スキンケア ]

座長：金森 豊(国立成育医療研究センター 小児外科)  
日野岡蘭子(旭川医科大学病院 看護部)

**01** オリーブ油を用いたオムツ皮膚炎の予防的スキンケアの検討

福井県立病院 母子医療センター NICU 宮本友美子 他

**02** 演題取り下げ

**03** 先天性表皮水疱症の鑑別を要した皮膚欠損症患者への介入

愛媛県立中央病院 久保美千代 他

**04** 小児における造血幹細胞移植・化学療法施行中の肛門周囲皮膚炎に関する調査の現状と課題

大阪市立総合医療センター 本田 優子 他

9:40~10:30 一般演題 II

[ 胃瘻・腸瘻 ]

座長：仁尾 正記(東北大学 小児外科)  
小柳 礼恵(東京大学医学部附属病院 看護部)

**01** direct 法による経皮内視鏡的胃瘻造設術の利点・欠点

大分県立病院 小児外科 飯田 則利 他

**02** 小児における安全で確実な胃瘻交換法とは

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 外科 武 浩志

**03** 胃食道逆流症に対して造設された胃瘻の功罪

自治医科大学 小児外科 前田 貢作 他

**04** 胃瘻からの半固形食短時間摂取法を導入した胃瘻患者66例の検討

長野県立こども病院 外科 高見澤 滋 他

# シンポジウム

テーマ

## [ 小児 WOC ケアのこれまでこれからとひろがり ]

### 小児 WOC ケアの歴史を振り返り、 将来の課題を明確にしよう

司会：西島 栄治（兵庫県立こども病院 小児外科）  
溝上 祐子（公益社団法人日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育課程）

#### 1 「これまで」

山梨大学医学部看護学科 石川真里子

#### 2 「これから」

公益社団法人日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育課程 溝上 祐子

#### 3 「ひろがり」医師の立場から

神奈川県立こども医療センター 泌尿器科 山崎雄一郎

#### 4 「ひろがり」患者・家族の立場から

患者様ご本人とご家族

#### 5 「ひろがり」臨床心理士の立場から

大阪府立母子保健総合医療センター こどものこころの診療科 山本 悦代

#### 6 「ひろがり」小児看護専門看護師の立場から

兵庫県立こども病院 小児看護専門看護師 濱田 米紀

# 1

## 「これまで」 小児のストーマ・排泄管理の変遷からみた 今後の課題

石川 眞里子

山梨大学医学部看護学科

日本小児ストーマ（・排泄管理）研究会は初代代表世話人である中條俊夫先生との話し合いから発足が計画された。遡れば1981年にストーマリハビリテーション（SR）講習会が開催された時に当時の国立小児病院に勤務していた中條先生と石川が小児のストーマ医療とケアの講義を担当させていただいたことが始まりといえる。講習会では成人のストーマケアが中心であるが小児を対象としたケアの必要性が理解されていたために講義課目に入れられた。SR講習会は基礎から上級コースに役割を変えたが地域講習会の基盤をつくり、カリキュラムは現在も引き継がれている。地域講習会においても小児ストーマの講義は定着してきており、成人と小児という区別がなくストーマという共通領域でその知識の普及は継続されてきた。もちろん小児ストーマ・排泄管理セミナーも本研究会と同時期に開催してきたことは小児専門領域のケアの質に貢献してきた。

今回第27回の研究会を迎え、今までの発表内容を概観すると演題数は飛躍的に多くなり小児褥瘡やスキンケアなどに領域が拡大し、ケアの質は向上してきたといえる。しかし、この間には少子化が進み、患者数が減少した反面で低出生体重児の増加や創傷管理の必要性が高まったためにケアの方向が分散することでエビデンスとなる研究を深め難くなっていることが考えられる。ストーマ・排泄管理領域の課題として、

1. 小児期から発達過程における支援システムが病院中心となっているために受診しない／できない患者の青年期以降のフォローアップが十分でない。
2. 過敏性腸症候群や慢性便秘の増加など手術適応のない排泄問題のある患者のケアや支援が不足。
3. 先天性疾患や排泄障害がある児の家族への支援が体系化されていない。
4. 排便機能評価などの専門外来が充実しておらず、適切な評価がされないことでケアに繋がり難い。

これらの課題を改善するために本研究会でできることを共に考える機会としたい。

## 2

# 「これから」 WOC ケア看護師の立場から

溝上 祐子

公益社団法人日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育課程

---

WOC ケア領域は創傷・オストミー・失禁ケアの領域を示す。小児においては先天性疾患による排尿・排便機能の障害を抱える二分脊椎症、肛門奇形、下部尿路障害など排泄ケアを要する病態を有するこどもが少なくない。本研究会はそうした背景から、多くの症例報告や研究活動などの啓発活動、および特殊な排泄ケアを要することから、人材育成を目的に教育活動などが活発に行われてきたところである。発足当時より排泄ケアの中心はストーマケアであったが、近年はこどもの QOL 向上を目的にできるだけ、ストーマを回避した治療が選択されるようになり、それに伴う失禁管理が主流になってきている。しかしながら、低出生体重児のストーマ造設は一時的であれ、増加の傾向にあり、そのストーマ管理には難渋している。一方、創傷に関しては高度医療の治療に伴う皮膚の脆弱性を要因に引き起こされる皮膚損傷、特にメディカルデバイスによる圧迫やずれで発生する潰瘍など必要となされる創傷ケアも重要な課題となってきた。これからの小児に必要な WOC ケアはこれからも排泄管理と創傷管理の 2 本柱の元に発展させていかなければならない。

これからの日本の医療はさらに進む高齢少子化を背景に医師の役割、看護師の役割がチーム医療という枠組みの中で変化を求められている。こどもの QOL を維持するために、小児ならではのチーム医療の体制化、および看護師もより専門性を求められると考える。今回はこうした日本医療の変革に WOC ケア看護師はどのように対応していくべきか、私見を述べる。

# 3

## 「ひろがり」 医師の立場から

山崎 雄一郎

神奈川県立こども医療センター 泌尿器科

私がこの研究会の前身である小児ストーマ研究会に足を踏み入れたのは20年ほど前である。当時は研究会の大部分のトピックスは消化管ストーマすなわち WOC の“O”であり、小児外科医とストーマ・ケアを担う小児外科病棟の看護師が多数研究会に出席していた。北米留学から大学に戻って間もない私はその頃始まったセミナーで、自己導尿の必要性や、禁制型導尿路の選択について小児外科病棟の看護師さんに意気揚々と伝え始めた。WOC のなかの尿禁制“C”を獲得するための尿路再建術を小児領域で訴え始めたのである。なかでも患者数の多い二分脊椎患児の尿禁制を獲得するのに何が必要かを繰り返し講義した思い出がある。

しかしその後、小児病院に移動して実際に多くの二分脊椎患児の外来をみていると尿失禁より便もれに不安や心配を抱えているお子さんが少なくないことに気がつく。このため1990年代後半から本邦でも広がりだした順行性洗腸法を尿路再建手術時に同時に施行することを積極的に取り入れた。しかし始めた当初は手術手技にばかり没頭して、本当にどのような排泄管理がこどもに必要なのかを熟慮していたとは言えなかった。順行性洗腸路を作製して洗腸が思うようにうまくいかないと WOC 担当ナース、小児外科医や排泄外来担当ナースに相談するという熟慮のない行動も繰り返していた。さらに洗腸のために長時間にわたり座位を取ることで深い褥瘡を作って救急外来に来院した洗腸患者を経験した。思いもかけない“W”との遭遇である。

排泄をケアするということのなかで手術は本当に一部でしかない。自分にとって小児 WOC ケアの広がりとは自分の失敗の中でこどもと家族が教えてくれたことである。すなわち泌尿器科医であっても尿路だけを考えていてはいけない、便失禁を考える場合に手術でコントロールがよくなるとは限らない、患者背景を知らなければ患児にとっての QOL がよくなるわけではない、とんでもない合併症がある、など。これらをシンポジウムでお伝えしつつ、なお外科治療の利点も患者に伝えていこことが小児泌尿器科医としての使命である

# 日本小児ストーマ・排泄管理研究会 世話人会名簿

2013年3月31日現在

○は幹事、◎は監事、\*は未承認、☆は代表世話人

## 特別会員

中條 俊夫	川村 猛	真家 雅彦	橋都 浩平
岩淵 眞	大神 浩	岡田 正(故)	梶本 照穂
西 寿治(故)	山崎 洋次	横山 隆	棟方 博久
渡辺 泰宏	林 奂		

## 外 科

施設名	医師側	看護職側
<b>(北海道)</b>		
旭川医科大学第一外科 北海道大学 小児外科	宮本 和俊 岡田 忠雄	日野岡蘭子
<b>(東北)</b>		
弘前大学小児外科 東北大学小児外科 山形大学第二外科 岩手医科大学小児外科 宮城県立こども病院	須貝 道博 仁尾 正記 *中村 潤 水野 大 天江新太郎	木村 淑子 三谷 綾子 千葉 励子 斉藤 弘美
<b>(関東甲信越)</b>		
新潟大学小児外科 群馬県立小児医療センター 公立藤岡総合病院 千葉県こども病院 埼玉県立小児医療センター 獨協医科大学越谷病院小児外科 さいたま市立病院小児外科 埼玉医科大学小児外科 帝京大学小児外科 日本大学小児外科 東京都立小児総合医療センター外科 山梨大学医学部看護学科 東京大学小児外科 慶応義塾大学外科 東邦大学医療センター大森病院小児外科 自治医科大学付属病院 国立成育医療研究センター外科 杏林大学小児外科	窪田 正幸 *西 明 長嶋起久雄 岩井 潤 内田 広夫 池田 均 ○中野美和子 *古村 眞 小川 富雄 越永 従道 ○広部 誠一 石川眞里子 ☆岩中 督 黒田 達夫 黒岩 実 ◎前田 貢作 金森 豊 葦澤 融司	清水 奈保 作田 香織 近藤美和子 小山田幸枝 田代 美貴 ◎松岡 美木 末吉 康子 小柳 礼恵 秋山結美子 保刈 伸代 太田 信子 奥田 裕美

日本赤十字社医療センター小児外科 聖マリアンナ医科大学小児外科 神奈川県立こども医療センター外科 北里大学外科 北里大学東病院外科 東海大学外科 山梨大学医学部第二外科 山梨県立中央病院小児外科 長野県立こども病院小児外科 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院小児外科 順天堂大学医学部附属順天堂医院	石田 和夫 北川 博昭 武 浩志 田中 潔 松原 康美 上野 滋 ○高野 邦夫 尾花 和子 高見澤 滋 渡部 寛子 横山 友美	佐々木貴代 熊木 孝代 市六 輝美      ○山崎 紀江
---	---	---

(東 海)

静岡県立こども病院外科 名古屋大学小児外科 名古屋市長西部医療センター 藤田保健衛生大学小児外科 独立行政法人国立病院機構長良医療センター 愛知県コロニー中央病院小児外科 あいち小児保健医療総合センター	*漆原 直人 安藤 久實 佐藤 陽子 鈴木 達也 鴻村 寿 加藤 純彌 渡辺 芳夫	木村 真子    栗本 淳子 木村 智靖
---	---	-------------------------------------

(北 陸)

富山大学第二外科 金沢医科大学小児外科	塚田 一博 河野 美幸	
------------------------	----------------	--

(近 畿)

近畿大学外科 大阪府立母子保健総合医療センター外科 大阪市立総合医療センター小児外科 兵庫県立こども病院外科 京都橘大学 関西医科大学小児外科 奈良県立医科大学消化器総合科 和歌山医科大学第二外科 淀川キリスト教病院小児外科	八木 誠 ○窪田 昭男 中村 哲郎 西島 栄治 加藤 好美 濱田 吉則 金廣 裕道 瀧藤 克也 塩川 智司	堂本 勝子 松尾 規佐  ○鎌田 直子
--	---	------------------------------

(中 国)

鳥取大学医学部付属病院小児外科 広島大学総合診療部 国立療養所柳井病院 岡山大学	清水 法男 檜山 英三 田村 泰三 野田 卓男	
---	----------------------------------	--

## (四 国)

香川大学小児外科	*下野 隆一	門田 千晶
----------	--------	-------

## (九 州)

九州大学小児外科	田口 智章	○和田 美香
久留米大学小児外科	八木 実	
長崎大学第一外科	大島 雅之	
熊本赤十字病院	寺倉 宏嗣	
佐賀県立病院好生館	江口 忍	
九州厚生年金病院	上村 哲郎	*山口 弘恵
大分県立病院	飯田 則利	宮成 美弥
大分こども病院	大野 康治	

## (沖 縄)

沖縄県立南部医療センターこども医療センター小児外科	仲間 司	砂川 悦子
---------------------------	------	-------

## 泌尿器科

施設名	医師側	看護師側
-----	-----	------

## (北海道)

北海道大学泌尿器科		林 みゆき
旭川医科大学 泌尿器科	柿崎 秀宏	

## (東 北)

宮城県立こども病院	坂井 清英	
-----------	-------	--

## (関東甲信越)

千葉県こども病院泌尿器科	*本間 澄恵	安蔵 早苗
慶應大学泌尿器科	浅沼 宏	
自治医科大学泌尿器科	○中井 秀郎	
国立成育医療センター泌尿器科	上岡 克彦	
日本看護協会 看護研修学校		○溝上 祐子
神奈川県立こども医療センター泌尿器科	山崎雄一郎	
獨協医科大学越谷病院泌尿器科	宋 成浩	
東京大学泌尿器科	井川 靖彦	
前橋赤十字病院	松尾 康滋	

## (東 海)

あいち小児保健医療総合センター	吉野 薫	
-----------------	------	--

## (近 畿)

兵庫県立こども病院泌尿器科	杉多 良文	
大阪府立母子保健総合医療センター 泌尿器科	島田 憲次	田中はるみ
星ヶ丘厚生年金病院泌尿器科	百瀬 均	菅井亜由美

## (九 州)

福岡大学看護部		梶西ミチコ
---------	--	-------

## 日本小児ストーマ・排泄管理研究会 歴代会長

昭和 62年	第1回	東京大学小児外科	中條 俊夫
63年	第2回	広島大学第1外科	横山 隆
平成 元年	第3回	神奈川こども医療センター 一般外科	西 寿治
2年	第4回	弘前大学第2外科	棟方 博文
3年	第5回	都立清瀬小児病院	川村 猛
4年	第6回	金沢医科大学小児外科	梶本 照穂
5年	第7回	慈恵会医科大第1外科	山崎 洋次
6年	第8回	福岡市立こども病院・感染症センター外科	大神 浩
7年	第9回	大阪府立保健総合医療センター	島田 憲次
8年	第10回	北海道大学第1外科	内野 純一
9年	第11回	東京女子医大看護短期大学	石川真里子
10年	第12回	千葉県こども病院外科	真家 雅彦
11年	第13回	大阪大学小児外科	岡田 正
12年	第14回	新潟大学小児外科	岩渕 眞
13年	第15回	山梨医科大学第2外科	高野 邦夫
14年	第16回	熊本赤十字病院小児外科	寺倉 宏嗣
15年	第17回	兵庫県立こども病院	西島 栄治
16年	第18回	獨協医科大学越谷病院泌尿器科	中井 秀郎
17年	第19回	香川大学小児外科	渡辺 泰宏
18年	第20回	神奈川県立こども医療センター泌尿器科	山崎雄一郎
19年	第21回	日本看護協会看護研修学校	溝上 祐子
20年	第22回	大阪府立母子保健総合医療センター	窪田 昭男
21年	第23回	旭川医科大学	宮本 和俊
22年	第24回	さいたま市立病院小児外科	中野美和子
23年	第25回	九州大学大学院小児外科	田口 智章
24年	第26回	宮城県立こども病院	坂井 清英
25年	第27回	兵庫県立こども病院	鎌田 直子

第27回日本小児ストーマ・排泄管理研究会

ご支援(寄付・広告掲載・機器展示・書籍販売・ドリンク・  
ネームホルダー提供)いただきました企業並びに団体名

(敬称略・五十音順)

アルケア株式会社	泉工医科工業株式会社
伊那食品工業	ソルブ株式会社
花王カスタマーサービス	株式会社ツムラ
科研製薬株式会社	日東製薬株式会社
京都橘大学看護教育研修センター	日東メディカル株式会社
株式会社共和	ニチバン株式会社
キンバリークラーク・ヘルスケア・インク	日本メディカルプロダクツ株式会社
株式会社ケーブ	ネスレ日本株式会社
コヴィディエンジャパン株式会社	富士システムズ株式会社
越屋メディカルケア株式会社	株式会社ホリスターダンサック事業部
コロプラスト株式会社	株式会社ホリスター ホリスター事業部
コンバテックジャパン株式会社	宮野医療器株式会社
山陽学園大学	株式会社メディカ出版
株式会社ジェイ・エム・エス	メンリッケヘルスケア株式会社
株式会社照林社	持田ヘルスケア株式会社
神陵文庫	株式会社やよい
スリーエムヘルスケア株式会社	

本研究会開催にあたり、上記の皆様より多大なるご支援を賜りました。

ここに謹んでご芳名を記し、心より御礼申し上げます。

第27回日本小児ストーマ・排泄管理研究会

会長 鎌田 直子

第27回 日本小児ストーマ・排泄管理研究会  
プログラム・抄録集

---

会 長：鎌田 直子

事務局：兵庫県立こども病院 看護部内

担当：伊達 尚美、鳴滝 由佳

TEL：078-732-6961 FAX：078-735-0910

E-mail：kodomostoma@gmail.com

出 版： 株式会社セカンド  
学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

小児用スチーム装具

# Little Ones™

ひふにやさしく、キミにかわいく。

™はConvaTec Inc.の商標です。© 2012 ConvaTec Inc.



輸入販売元  
**コンバテック ジャパン株式会社**  
〒106-0032 東京都港区六本木1丁目8番7号

お客様相談窓口  
**☎ 0120-532384**  
<http://www.convatec.com>